

1. 持続可能な水路の維持管理と利活用について問う。

豊富な水資源が魅力の本町では町内各所で蛍が飛び交い、歴史ある水路は景観や環境を形成する大きな要素である。

しかし、農家の高齢化や兼業化、地域の混在化などにより農業用水路の維持管理の対応が今後の大きな課題となっていくことが予想される。

農業用水路は灌漑用水だけでなく、防火用水、環境用水、親水用水といった地域社会で重要な役割を果たす資源であり、地域住民全体の利用を考えると非農家の水路の維持管理への参加意識の啓発も必要である。

また、水路の更なる利活用を進めることで歴史ある文命用水を時代に即した形で次の世代へ残していけると考え、次の事項を問う。

- ①自治会加入者が減少するなか、クリーンデーでの河川清掃の負担増加や平等性について町の考えは。また、度重なるクリーンデーの中止により手入れが行き届かなくなっている水路の現状は。
- ②町内水路の危険箇所の把握など安全対策は十分か。
- ③あじさい公園発電所の評価は。また、低炭素社会に向けた自然エネルギーの地産地消の観点から、小水力発電の推進の考えは。
- ④環境に配慮した親水整備を進める考えは。